園のおたより

第　９　号

令和７年１月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

成長を感じた瞬間

園長　関　由起子

　あけましておめでとうございます。本年もこどもたちにとって楽しい園生活になるよう教職員一同努めさせていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

　本園は１月８日に始業式を迎え、こどもたちが元気に登園してきました。３週間の長い冬休みの間、こどもたちは健やかに成長し、見た目も大きくなっていました。思わず、「大きくなったね」と声をかけると、こどもたちは「ニコッ」と笑いました。２組さんのＡさんにも、「大きくなったね」と声をかけると、「園長先生も大きくなったね」と答えてくれました。けれども、この言葉は大人の私にとって少し複雑です。心の中で“縦に大きくなったわけではないから、横に大きくなった？！”と、年末年始の怠惰な生活を思い出していました。Ｂ先生にＡさんの言葉を伝えたところ、「こどもたちは、“大きくなったね”を褒め言葉だと思っている」と教えてくれました。２組さんは私にも褒め言葉を掛けてくれるほど成長したんだ、と安堵しながら微笑ましく思いました。

　今月は、私が感じた「こどもたちの成長を感じた瞬間」を学年別にお伝えいたしたいと思います。最初に１組さんです。１組さんの成長ぶりはすばらしいのですが、まだ３，４歳児ですので、大人の手を必要とすることはたくさんあります。あまり着替えが得意でないＣさんは、きっとこの日も誰かに着替えさせてもらおうと思っていたのかもしれません。けれども、早く着替えて並ばないと、みんなが自然観察園に出かけしまうと気づいた時、ものすごいスピードで着替えを完了し、帽子を被って靴を履き、園庭に走っていきました。いつの間にか、着替えがスムーズにできるようになっており、周囲の状況からいつ自分の本領を発揮すべきか判断できるようになっていたことに、驚き感動しました。

　２組さんは、ますます遊びの天才ぶりを発揮してくれるようになりました。私は昨年からコマ回しに挑戦しているのですが、なかなか成功しません。２組で練習していると、ＤさんとＥさんがコマ回しのコツを、コマを回しながら具体的に見せてくれました。そしてついに私のコマが回ると、ふたりとも飛び上がって声を上げて喜んでくれました。こんなに喜んでくれることに感動し、「教える」とはこうあるべきなんだ、と二人から教わりました。

　３組さんはいろいろなことで頼りになる存在となりました。特に感動したのが、３組さんが自分より小さいこどもたち（特に１組さん）の安全にも気にかけてくれるようになったことです。先日、私は３組のＦさんに、お部屋に戻りたくないときの１組さんの気持ちについて相談すると、「お部屋で楽しいことが待っていることを伝えないとだめだよ」と、具体的な例を挙げながら教えてくれました。そして、ブランコの前にいた１組のＧさんに駆け寄り、手を取り移動しようとしました。なんと優しく、頼もしいのでしょうか。

　本園のこどもたちは、確実にやさしく、たくましく、そしてかしこく成長しております。こどもたちの振る舞いは、この不寛容な時代において、大人が見習うべきことがたくさんあると感じました。皆様、いかがでしょうか。

イメージと材料

副園長　小谷　宜路

こどもたちは、たくさんのものを作り出しています。その造形的な姿には、２つの過程があるように思います。１つは、先にイメージがあり、そのイメージから材料を選んだり形作ったりしていく姿です。例えば、お出かけ用のバックを持ちたいというイメージが湧くと、同じ大きさの紙を２枚選んでテープで袋状に貼り合わせていきます。新幹線に乗りたいというイメージが湧くと、段ボール箱の高さを考えて段ボールカッターで切ったり、先端部分が尖るようにガムテープで留めたりしていきます。自分のイメージしたものにぴったりした材料が見当たらない時には、「もうちょっと薄い紫の(紙)、ない？」「ここにリボンみたいにして、付けたいんだけど」などと、イメージを形作るのに必要な材料を具体的に伝えてくることもあります。

もう１つの過程は、先に材料があり、その材料と出会うことから、新たなイメージをもっていく姿です。例えば、色とりどりの紙テープを見つけると、繋いでいけば素敵な髪のようになりそうとイメージが生まれ、さっそく作り始めます。箱に入った様々な形の小さな木片を見つけると、その中から取り出して合わせてみたり、向きを変えたりします。そのうちに、大好きな恐竜の姿に似ているとイメージを膨らませ、ボンドを使って固定していきます。

園では、どちらの過程も大切に考え、「イメージ」と「材料」の両面から、こどもたちの遊びを支えることを心がけています。「イメージ」は、こどもたちそれぞれの内に広がるものです。椿やサザンカの鮮やかな花の色、霜を踏んだ時の感触、冬の水の張りつめるような冷たさ、ウッドブロックやトライアングルの柔らかな音色、お話に出てきた妖怪たちの姿…、こどもたちは周りのいろいろな素敵なものと出会うことで、イメージを膨らませて自分の内に大切に持っているのだと感じます。こどもたちと一緒に、たくさん驚いたり、喜んだり、面白がったりしながら、イメージを豊かにしていきたいと思います。「材料」の面では、材質や色、形、大きさなど、こどもたちがこれでどんなものを形作っていくのか、期待しながら用意しています。空き箱や芯、牛乳パックなど、いろいろなイメージに繋がるような材料集めには、その時々に、ご家庭からもたくさんのご協力をいただいています。ありがとうございます。

冬の寒さが厳しくなるこれからの時期には、遊びの中で描いたり作ったりすることが増えてくると思います。造形的な楽しさを、こどもたちと一緒に感じながら過ごしていきたいと思います。

クラスだより

１くみ

「季節を感じる」

１月はこの季節の自然に全身で関わったり、お正月らしい遊びに挑戦してみたり、冬を感じながら過ごすことができました。年末から楽しみにしていたハッサクもようやく食べることができ、一口食べてみて、酸っぱさに体を震わせる人、思っていた味と違い残念がる人、おいしくてたくさんおかわりする人など、食べてみたことでそれぞれの感じ方があったようです。

どんどん気温が低くなってくると、吐き出した息が湯気のように白くなったり、ビオトープの水が凍っていたり、霜を踏んだ時の音を楽しんだり、これまで出会えなかった自然現象に出会うことができるようになりました。ある日、登園すると「先生、幼稚園に雪が降ったよ」と教えてくれる人がいました。一緒に外に出てみると、遊具の影のところに霜が残り、白くなっている所を見つけました。「いつ雪が降ったのかな？」「なんで幼稚園だけ雪が降ったのかな？」と、見つけた人の頭の中はたちまち不思議でいっぱいになっていきました。しばらく雪を眺めていると、「スケートできるんじゃない？」と上を滑ってみることに。しかし、思っていたように滑らず「あれ？」と不思議がりながらも、「全然、滑らなかった！」と自分の予想が裏切られたことにすら、面白さを感じているようでした。

体を動かして遊ぶきっかけとして、新しく“ぐるぐる凧”を紹介しました。持って走ってみるとぐるぐると回ることが面白く、自分の凧を見ながら繰り返し走ってみる姿がありました。もっとたくさん回って欲しいという気持ちから、試行錯誤しながら凧を揚げているうちにコツを見つけた人たちが「こうやってね、紐を短くして、速く走るといいんだよ」と嬉しそうに教えてくれました。また、風が強い日に凧を持って出かけると、走らなくても凧が回ることに気付き、「走らなくてもくるくるするんだよ」と嬉しそうに大発見を教えてくれました。その後、やぐらや滑り台の上に凧を持っていき、友達と一緒に凧が回る様子を眺めていました。自分の動き方やその日の天気によって揚がり方が変わる凧の様子に楽しさを感じているようでした。

自然の中には、「どうして？」と感じる不思議や思ってもいなかったことが起こる面白さがたくさん隠れています。これからもそれらにたくさん出会えるよう支えていきたいと思います。

２くみ

「日々の遊びから感じること」

２組の人が遊ぶ姿から感じることをお伝えしたいと思います。

美しいパンケーキを焼く人は、友達に「今日一緒に遊ぼうよ」と言われました。「いいよ。わたし着替えたらヘビハウス(ままごとの場)にいるからね。」と応えて、丁寧に美味しいものを作っています。好きな場があり、この遊びが好きと気づいている人です。この人を見ていると、好きな遊びをしている「わたし」自身も好きなのだろうと思うのです。

サッカーを繰り返す人は、ボールを追いかけている時に転びましたが、またボールを追いかけていきます。保健室に誘うと、行かないよ。ぼくがいないと負けちゃうと思う、と応えてまっすぐにボールに向かいました。この人は、友達と一緒に遊ぶ楽しさと共に、「わたし」は必要とされていることを知っているのだと思うのです。同じように白チームでサッカーをする人は、ある日、友達が次々と赤チームに加わったので白チームは、一人しかいません。「あれれ？一人で大丈夫なの」とたずねてみると、「〇〇さんが練習しに行っちゃったの。でもぼくは一人でも強いからできるよ。」この人は、「わたし」の強さや必要とされていることを知っていること、そして〇〇さんがもっとサッカーができるようになりたい気持ちで練習していることを大切にしていると思うのです。

大好きな色の紙や毛糸を使って丁寧に作っている人は、「ふぅできた」と喜びに満ちて作ったものをじぃっと見ています。そして大好きに囲まれたそれは素敵なオシャレ屋さんを作りました。「わたし」の「好き」を形にする姿は、「わたし」の内側をよく見つめながら「わたし」に向けて「好き」と伝えていると思うのです。オシャレ屋さんに買いに来た人は、お気に入りを見つけました。遊ぶ時には大切に身につけています。あの人が作ったこのバッグは、あの人の好きという思いを受け取り「わたし」の必要なものになっているのだろうと思いました。

それぞれが、「わたし」自身を大切にし、周りの人に大切にされていることを感じて暮らしています。それは、人として生まれて自分の人生を生きる中で、大切にされてきたからなのだとわかります。先日、他県の幼稚園を訪ねた時に教えていただいた言葉があります。大人は言葉を使うので、日々記憶にして残します。赤ちゃんは、言葉は使わないので、大切にされて育っていることを日々希望にして残し、日々大切にされることは、わたしは生まれてきてよかった、わたしは価値のある存在なんだ、この世の中は信じるに足りるんだ…と、生きる希望を形成していくそうです。

それがつながって今の素敵なあの人たちがあるのですね。素敵な人のそばにいるおうちの方々は、日々とってもすごいことをしていることも、しみじみと感じました。いつもありがとうございます。

３くみ

「作る楽しみ」

寒さが厳しくなってきましたが、時折感じる日差しの温かさが心地よく、進んで園庭に体を動かす人たちの姿が印象的です。鬼遊びや長縄跳びなどで体を温めた後に、保育室に戻ってくると、今度はじっくりと作る遊びに向かっていく姿があります。3 組の保育室周辺には新幹線や編み物で作ったマフラー、デザインして作り途中のドレスなど様々なこどもたちが作った物があります。作っている様子に目を向けていくと、こちらも様々です。じっくり自分のイメージで没頭して作る人や、友達とお話をしながら和気あいあいと作り進める人など作る中にもいろいろな楽しみ方があるようです。友達の作っている姿や物からインスピレーションを受けて、自分の楽しみにしていく人たちもいます。新幹線作りの場では、近くに窓口を作って切符を書いたり、ホームの案内表示を描いて貼ったりする人、自分の技として段ボールをきれいに切ってみせる人など、友達の遊びの様子にアンテナを張りながら、自分の楽しみとしていく姿が印象的です。

クラスみんなの活動としては、2 学期末に楽器で演奏した「トルコ行進曲」からイメージを得てお話を作りました。そこに登場するいろいろな「伝説の食べ物」を作り進めています。新しく張り子の作り方に挑戦する中で、やり方のコツをつかんだ人が「(紙が)ザラザラの方にのりを塗るといいよ」「たっぷりつけるんだよ」と教えてくれる姿がありました。みんなで力を合わせて作り、だんだんと伝説の食べ物が形になってきました。どんな劇表現になるのか楽しみです。折り紙を使った節分の枡作りでも、こどもたち同士で教え合いながら進めていく姿がありました。

いろいろな作る楽しみの中で、それぞれに友達の存在があり、だからこそ楽しい気持ちや、楽しみな気持ちが倍増していく、そのような姿でした。